

### <調査参加者への支援情報>

各学会などで出されている 2011 年東北地方太平洋沖地震に関する調査ガイドラインなどを参考に、気をつけるべき点を以下にまとめました。

使い方：調査に行く際には、参加者に各項目を徹底し、チェックする。

### <調査開始にあたって>

下記の条件が満たされていることを確認する。

- 1) 調査対象地域で、被災地の救命活動および行方不明者の搜索活動の規模が縮小し、復旧に入っている。
- 2) 調査対象地域の安全が確保される。
- 3) ガソリンや物資の供給がある程度落ち着き(被災者に行き渡るようになり)、道路の状態も緊急車両以外の車両も通行できるようになる。
- 4) 設定した行程において、調査参加者自身がレンタカーや宿泊の手配を行うことができる。

### <考慮すべき点>

- 福島第一原子力発電所事故にともなう影響地域は、調査対象地域から除外する。
- 当分の間、各自治体へのアプローチは原則遠慮する。
- 地域の交通事情、物資の流通状況等を適宜確認し、市民感情に十分配慮する。
- 必ず旅行損害保険に加入する。

### <調査参加者の安全確保>

(余震からの安全)

- 現地では、余震に十分注意する。
- ヘルメットを携行し、必要時には早めに着用する。

(津波からの安全)

- ラジオを携行し、NHK FM または AM 放送を受信できる状態で調査する。
- 10m 程度の標高に常に逃げられるように避難路を確認する。

(廃棄物等からの安全)

- アスベストなど有害物質の飛散がある場合には、風向きを考えて行動する。
- マスクを携行し、必要時には早めに着用する。

### <連絡体制の確保など>

- 神戸大学の所属先担当者に日報を入れ、行動予定など所在を明らかにしておく。
- 調査団員は、各自で傷害保険に加入するなどの手配をすることが望ましい。
- 調査内容を現地で接触したマス・メディアに公開するときには、個人の立場で行う。